

# 巻頭言

## G20 報告公開セミナーと OECC30 周年に向けて



(一社)海外環境協力センター 理事長 竹本和彦

OECCは、1990年3月の発足より、来年でちょうど30周年を迎えます。このため先般開催された理事会（本年6月）において、「OECC設立30周年記念行事実行委員会」（委員長加藤三郎氏）の設置が合意され、当日開催された同実行委員会では、①30周年記念誌の発行、②誌上座談会の開催及び③記念式典・シンポジウムの開催（2020年6月予定）を3本の柱とする記念行事を包括的に実施するとの基本方針が決定されました。また「30周年記念誌企画・編集委員会」（委員長浜中裕徳氏）の設立が合意され、今後は本委員会が中心となって「30周年記念誌」の企画・編集にあたることになりました。

今般、記念誌企画・編集委員会はOECC広報部会との合同会合を開催し、今後の編集方針について確認したところです（巻末の活動報告参照）。併せて「橋本道夫先生と私」と題する冊子を記念誌の別冊として発行することが決定されました。この冊子は、昨年より本会報に連載されている「リレーエッセイ：橋本道夫先生と私」を再編集してとりまとめるものとなります。

この度OECCにおいては、部会活動の更なる充実を目指し、これまでの技術部会、研修部会及び広報・情報部会の3部会体制から、技術・研修部会と広報部会の2部会体制に再編成しました。同時に部会活動に対応した事務局体制も一新し、できるだけ会員の皆様のご意向に沿えるよう運営していきたいと思っています。また広報部会においては上述の「30周年記念誌企画・編集委員会」と協働し、記念誌の発行に向け貢献するとともに、アウトリーチ活動の戦略的展開を図っていくこととしています。

OECCのアウトリーチ活動については、これまで会報の発行（年3回）やウェブサイトの充実に努めてまいりました。今後こうした媒体をフルに活用し、例えば技術・研修部会が主催する一般公開セミナーの内容を掲載するなど会員の皆様のニーズに即した企画・編集ができるよう努めていきたいと考えています。また集客性の高い各種イベントなどにおいて、ブース等の出展の機会を探求し、会員の皆様とともにOECC活動のアウトリーチを戦略的に図って

いけるよう努めてまいりたいと思っています。

ところでOECCは、去る8月7日、環境省及び国連大学と共同して「G20報告公開セミナー：G20を契機とした環境政策の将来展望」を開催しました。ご案内のとおり、G20の環境・エネルギー大臣会合が6月中旬軽井沢において、またG20サミットが大阪において6月末にそれぞれ開催されました。なおG20サミット及びその関連閣僚会合が日本にて開催されるのは、G20の発足以来初めてであり、また環境大臣会合が開催されるのもG20の歴史上初めてのことです。

これら一連の会合では、気候変動対策に係るイノベーション、気候変動の適応策、さらには海洋プラスチックごみと資源循環などが主要議題として取り上げられました。これら会合の概要については多くのマスメディアなどを通じて報道されたところですが、個別議題の合意プロセスにおける詳細については、必ずしも国民の皆様には十分には行き届いていなかったのではないかと感じていました。

そこで、今回の報告セミナーでは、これら会合の開催に向けた準備段階から政府代表団の中核として参画された環境省の森下地球環境審議官をはじめ、同省の大井国際連携課長及び循環型社会推進室の小沼室長補佐にご登壇いただき、国際交渉の最前線の様子なども含め最終合意に向けた交渉の実態についてご報告いただくとともに、今回の国際合意を受けて我が国の環境政策を今後どのように展開していくのかについて、可能な限りお話をお伺いする機会を持つこととしました。

G20報告会の詳細については、本会報の特集として取りまとめられています。会議後のアンケートにおいても、多くの参加者の皆様から大変参考になったとの評価を頂きました。また今後、気候変動と資金、気候変動適応策の詳細、海外環境協力の優良事例、資源循環及びプラスチック対策に関する内外の取組などに係る情報提供の機会を設けてほしい旨の希望も寄せられました。OECCとしては、こうしたご要望にしっかりと応えていきたいと思っていますので、今後とも皆様方のご協力をお願い申し上げます。